

第1回板橋区資源環境審議会清掃・リサイクル部会 議事要旨

(令和7年3月31日(月)：午後2時30分～午後3時30分)

○資源循環推進課長

定刻になりましたので、第1回清掃・リサイクル部会を、開会いたします。

本日は、委員の皆様方には、年度末の大変お忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

申し遅れましたが、資源循環推進課長小熊と申します。板橋区資源環境審議会清掃・リサイクル部会につきましては、当課が事務局となります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

本日は1回目ということもありますので、事務局より委員の皆様のご紹介をさせていただきます。なお、皆様におかれましては日頃より資源環境審議会委員としてもご活動いただいておりますことから、お名前のみ読み上げさせていただきます。役職等につきましては本日机上配付しております名簿をご覧ください。(資料の名簿読み上げ)

なお、本日は3名の方が欠席でございます。本部会の副部会長をお願いしております磐田委員、久保委員、浅加委員でございます。

続きまして、当部会の幹事及び事務局職員の紹介をさせていただきます。(資料の名簿読み上げ)

それでは、石垣部会長より、ごあいさつをいただきたいと思います。石垣部会長、よろしくお願いいたします。

○会長

年度末最終日という大変お忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。こちらの清掃・リサイクル部会につきましては、一般廃棄物処理基本計画策定を目的とした部会として、短期間で数多く開催することが予定されております。

少しでも多くのご意見をいただきながら、都度、板橋区資源環境審議会にも報告・審議しながら進めて参ります。非常にタイトなスケジュールではありますが、実りの多い会議体したいと思います。委員の皆様のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

○資源循環推進課長

石垣部会長ありがとうございました。

磐田副部会長からのごあいさつにつきましては、次回ご出席いただいたときとさせていただきます。

それでは、審議に入る前に、資料の確認をお願いします。

本日お配りいたしました資料は机上配付といたしまして、委員名簿、座席表、ご欠席の委員の方のご意見・ご質問シート、空のご意見・ご質問シート、また、資料4に修正がありますため改訂版の資料4です。事前配付したものは、次第、資料1 (仮称) 板橋区一般廃棄物処理基本計画2035策定方針、資料2 東京都板橋区資源環境審議会運営方針、資料3 東京都板橋区資源環境審議会傍聴規程、資料4 板橋区の清掃・リサイクル現況、資料5 板橋区一般廃棄物処理基本計画2025実績 以上でございます。不足がございましたら、挙手をお願いいたします。

それでは、石垣部会長、審議の進行をお願いします。

○会長

それでは審議に移ります。

本日は、清掃・リサイクル部会第一回目といたしまして、本部会の運営方針について共通認識を持つことと、板橋区の清掃・リサイクルの現状や現行計画の実績を事務局から報告いただき、これから時期計画策定に向けて基本情報・基礎知識となるような勉強会のような形式を考えております。それでは、事務局より資料に沿ってご説明をお願いいたします。

○資源循環推進課長

まずは、本部会につきましては、本年1月16日に開催されました板橋区資源環境審議会にて、板橋区一般廃棄物処理基本計画（第五次）の策定について区長より諮問があり、その際に、計画策定作業については、板橋区資源環境審議会の下に専門部会を設けて審議検討していくことになり、清掃・リサイクル部会の設置が決定いたしました。

資料1をご覧ください。こちらは板橋区資源環境審議会資料においてもご説明させていただきましたので、裏面、スケジュールのみ確認させていただきます。

本日をふくめ、清掃・リサイクル部会今年度・来年度で6回の審議を予定しております。適宜、板橋区資源環境審議会に報告をしながら策定作業を進めてまいります。

本部会の運営につきましては、資料2、3をご覧ください。

板橋区資源環境審議会の専門部会ですので、同審議会の運営方針及び傍聴規定を準用させていただきます。

資料2「東京都板橋区資源環境審議会運営方針」をご覧ください。

運営方針の要点をご説明しますと、会議は原則公開とすること、代理出席は認めないこと、会議録は公開することとしております。

資料3「東京都板橋区資源環境審議会傍聴規程」をご覧ください。傍聴の申し込み手続き、傍聴席に入れない場合について、傍聴者の遵守事項等を定めています。

なお、規定中、環境政策課となっているところは、清掃・リサイクル部会においては資源循環推進課が事務局となります。以上でございます。

○会長

ありがとうございます。ご説明いただいた件について、何かありましたらご指名いたしますので、挙手をお願いします。（異議なし）

運営方針等につきまして、ご了承いただきありがとうございます。

続きまして、資料4 板橋区の清掃・リサイクル現況、資料5 板橋区一般廃棄物処理基本計画2025実績について、一括して事務局から説明をお願いします。

○資源循環推進課長

こちらは、これから一般廃棄物処理基本計画策定について検討いただくにあたり板橋区の清掃リサイクルの現況・状況を網羅的に整理した資料です。

まず左側の欄は、区で発生する一般廃棄物の廃棄物・資源の量について示しています。区内

で1年間で発生する家庭系・事業系ごみ、資源、し尿等処理困難物、事業系ごみでそれぞれの量を示しています。家庭系・事業系ごみで約10万トン発生し、その組成としては紙・厨芥・プラスチックが多くを占めます。

真ん中の欄は、分別の種類・回収方法・処理処分、最終処分までを示しております。可燃、不燃、粗大、資源等各ごみ・資源種ごとに、どのように出され、誰が、どこへ収集運搬するのかの流れを記載しています。処理というのは焼却される場合もありますし、資源化されることもあるというのがわかると思います。

可燃ごみで言えば、週3回集積所25,600か所に出していただき、行政が回収し、清掃工場で焼却、その後中央防波堤外側処分場、新海面処分場へ埋め立てられます。すべてのものが中央防波堤外側処分場、新海面処分場へ行くというわけではありません。不燃ごみを見ていただきますと集められたものが中間処理施設に運ばれ、100%資源化されます。不燃ごみをさらに細かく選別し、建材や原料などに再生しています。そのほか特に申し上げる部分につきましては資源の欄をご覧ください。行政回収・集団回収・拠点回収という回収方法があります。それぞれのごみや資源の種別ごとにどのように処分されているのかを一覧にした資料でございます。続いて、右側、発生抑制・普及啓発についてです。こちらは、ごみとなる前・途中の取り組みです。板橋かたつむり運動については3R推進、いかにごみを発生させないかという取り組みを区民や事業者とともに推進している内容が記載されております。その下に、区が情報発信する際に対面・SNS・冊子等ツールを使い分けて発信している内容を記載いたしました。代表的なものとしては、対面による発信ではイベント出展での発信、SNS等の活用としてはInstagramでの発信、冊子等としては全戸配布したごみの分け方・出し方ハンドブック、広報いたばしが該当します。その下、経費につきましてはごみ・資源に係る歳出・歳入経費が記載しております。資料4の当日机上配付にて修正する部分については、プラ周知に係る周知経費を抽出して見えるように記載した点でございます。その下、適正排出についてはごみ・資源の排出を適切に行っていただくための取り組みを記載した。集積所での指導や、分別していないごみに貼付するイエローシール等です。一番下は、災害廃棄物の計画が策定済である旨を記載いたしました。今後の取り組み、進め方を検討していただくにあたっては、現行計画2025に沿って検討していただきます。発生抑制という部分では、2025計画では情報発信・普及啓発の部分に該当しますが、これにより廃棄物・資源の量が相対的に減っていくことをめざします。その後ごみになってしまった部分については分別の種類はじめ適正処理の方法を検討していくものでございます。例えば資源についてはどの資源を誰が主体で回収するか等、処理困難物・事業系ごみではどのように適切に排出・収集・適正処理するのか等をご検討するものでございます。検討していく内容や方法の詳細については第二回目以降でご説明させていただく予定でございます。

続いて、資料5をご覧ください。板橋区一般廃棄物処理基本計画2025の実績を記載したものでございます。現状の整理、進捗、評価をこれから行っていきます。今般策定内容に加わる食品ロスの取り組みも現行計画から行っています。また、昨今の一番大きな動きとしては、令和6年4月から区全域でプラスチックの回収・資源化開始をしております。右側、数値目標の進捗については以前資源環境審議会にて報告した内容と同じです。なお、評価としては区民1日ひとりあたりのごみ量は「順調」、リサイクル率については「漸進」となっております。裏面以降については、各項目における指標について、現状の実績がどのようになっているかを記載

したものでございます。現状値、目指す方向性、実績値を並べることにより策定時からどのように進捗したかを一覧で見られるようになっております。

○会長

ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、ご質問やコメント等ございましたらお願いいたします。

○委員

リサイクル率が目標に届かなかったのはなぜでしょうか。当時の目標設定がうまくいかなかったのでしょうか。要因がわかれば教えていただきたいです。

○資源循環推進課長

リサイクル率は全体に対しての資源の量です。ごみの減量とともに資源も減ってきています。社会的要因によるものもあります。ごみの量は減少していることから、必ずしも、リサイクル率上昇だけで成果を図ることも難しいと考えております。令和6年4月より区全域で開始となったプラスチック回収により多少上昇する可能性はございます。プラスチックの回収拡大を前回計画策定時に見込んで指標を立てているが、実際の区全域での開始が令和6年度になったことも多少影響はあると考えております。

○委員

リサイクル率につきまして、リデュースの観点から、各企業の努力もあり、資源自体の重量が減少していることも要因の一つではないでしょうか。特にびん・缶などは、軽量化が進んでいます。重量での目方になりますので、漸進であっても見方によっては前年より進捗しているということも考えられます。

○委員

資料5、指標1につきまして、令和5年度で計画目標を達成しておりますが、令和6・7年度はどれくらいになるか等、各年ごとの目標値・想定値は細かく設定されているのでしょうか。

○資源循環推進課長

各年ごと設定はしておりません。

区でごみ量を推計等は毎年しておりますがこれは収集運搬のためであり、余力を見込んだものとなりますため、ごみ減量の目標値とは乖離があります。

○委員

弊社は廃棄物処理の事業を行っておりますので関連する立場からご質問させていただきます。資料4にあります事業系ごみ減量マニュアル、これは具体的にどういったものですか。また、昨年の板橋区資源環境審議会でもこれに関連した質問をしたと記憶しておりますが、事業系シールを貼って区が回収する小規模排出事業者の場合、区はかなりよく指導していると思うのですが、我々のような許可業者が収集する事業系ごみについてはどのように適正排出させたり排

出指導を行いますか。一般廃棄物処理基本計画の中でそのような部分も強化した内容を記載してほしいと考えています。

○資源循環推進課長

事業系ごみの減量につきましては、一例となりますが、食ロス削減の観点から、キャンペーンを開催し飲食店における食べ残しを減らすといった区民と事業者と協働しながら事業系ごみを減らしていく一つの方向性としてあります。区収集ではない事業者につきましては、民間同士の契約で廃棄物処理を請け負っています。そういった排出事業者についても、区で出される一般廃棄物については区の責任と認識しております。今後具体的に適正排出指導やごみ減量を行うことを検討し、一般廃棄物処理基本計画の中でもごみ減量や適正排出の観点から記載する方向としたいです。

○委員

ごみ量は景気と直結していると感じています。今は、ごみを減量しよう・リサイクルに回そうという機運が家庭・事業共に高まっていると感じます。この意識は継続することが大切でかたつむり運動推進は大切なことです。リサイクルの重さは減っていても個数は増えている実態であることをご理解いただきたいです。

○資源循環推進課長

ごみ減量につきましては事業者の皆様、区民の皆様ともに進めていくものと考えております。普及啓発・情報発信強化について引き続き検討していきます。

○会長

お時間に余裕がございますので2回目の方も結構です。ご発言をどうぞ。

○資源循環推進課長

ここで、本日お休みの委員からのご意見を紹介いたします。

- ・資料4は廃棄物処理の流れがわかりやすく記載されていて見やすい。
- ・板橋区におけるゴミ組成分析等のデータや他自治体におけるゴミ排出量・リサイクル率を参考にしながら、重点策が必要な項目を抽出し、可能な限り定量的根拠に基づくKPI（重要業績評価指標）を設定する方向が望ましい。
- ・例えば柏市では、厨芥ゴミの水切りを推奨しているが、実行する世帯が○パーセント増えれば厨芥ごみが○パーセント減るのでゴミ排出量のKPI値は○グラム/人に設定するといった推計に基づいて指標を設定することで、打ち出している施策の検証に役立てようとしている。なお、柏市は市民1人1日あたりの家庭系ごみ（可燃・不燃・資源ゴミなど含む）排出量が560g（令和5年度）と比較的少ないが、生ごみたい肥化の普及啓発やフードロスの事業を積極的に行っていることも一因かもしれない。実績が進んでいる他自治体とより詳細に比較検討し、実施可能な施策を参考にしたい。
- ・また、さいたま市では令和8年度以降の製品プラスチック一括回収の導入に向けた市民の協力状況や意識調査および適切なリサイクルルートを検討するための取り組み（プラスチ

ック回収先行地域実証事業）が行われた。食品包装プラと容器包装プラ、そして50センチ未満の製品プラの一括回収を、市内の協力的な街区において実験的に実施している。その結果、従来の食品包装プラの回収率も向上するという相乗効果が見られている。一方で、不適物の中には火災リスクもある小型家電製品も含まれており、適切な分別に向けた対策や啓蒙活動の必要性が確認されている。このような実証事業を通して得られる知見も多いのではなかろうか。

- ・可燃ゴミに混入する紙類も資源ゴミとして回収するために、古紙回収業者へのヒアリングや他市で行われている雑紙専用の回収袋の配布など、何らかの施策検討が可能ではなかろうか。

○会長

ご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

○委員

板橋区は拠点回収等を行っていることに加え可燃ごみを週3回収しております。回収日数が増えるのごみ量が増えるのではないかと考えているがいかがでしょうか。コロナ期と現在、また年齢構成による特徴はありますか。また、事業系ごみはコンビニなどのものが混ぜられているのでしょうか。あとで机上配付された令和6年度ごみ排出実態調査を分析して何か特徴が見えてきましたでしょうか。副部長磐田先生のご指摘もあったように、電池の件を取り上げたいです。先日、自治体の桜まつり・エコマルシェにて、絵本の受付をしていましたが、絵本のなかにも電池が入っているものがあります。私の住んでいる地域は区役所の横にクリーンセンターがあり、そういったところからの火災は恐ろしいものであります。また、最近ではファーストフード店等での子ども向け絵本に小さな電池が入っているものもあります。小さなマイクロ電池は、処理しているときに火災が起きる可能性がありますし、保護者も無意識に廃棄してしまう傾向にありますので啓発を強化する必要があると考えます。

○資源循環推進課長

可燃ごみ収集回数とごみ減量の因果関係につきましては、確かに、回収回数が減ればそれだけ家にごみをためておく必要が出てきてごみ減量につながるという考え方もあります。週3取りは板橋区だけになりつつあります。他自治体の実績等を踏まえて検討する必要があると考えております。事業系・家庭系含め、23区等他区の事例を取り入れたり先進的取り組みを行っているところを確認しつつ、板橋区も独自の取り組みを進められればと思っております。

絵本の中に含まれる小型電池につきましては、「本は古紙」とシンプルに考えたときに「なぜそこに電池がはいってはいけないのか」というところまで思いをはせていただく、そういった普及啓発が必要だと考えます。区民の皆様は集積所に出したらその先はわからないということがよくあるようです。収集・運搬・処分といった、集積所に出した先で何が起きるのかをわかりやすく伝えることも、集積所に出す段階の適正排出を促進できることと考えております。

○委員

国や都からは絵本に内蔵されている小型電池についても周知が下りてきていると認識してお

りますが、絵本業者などには届いていないと考えます。電池を取るのも困難であり、無造作に廃棄されることもあり、処理過程を普及啓発することも大切だと思います。

○委員

先週、3月25日深夜、工場での火災が起きました。原因はリチウムイオン電池です。マニュアル通りに回収・絶縁処理し、ペール缶に入れてあったのですが発火しました。新たな機械を導入するには1年以上かかることに加え、2区のプラ選別品も入っていた。16t程あり、別の職場で対応することとなった。リチウムイオン電池等危険なものについては国から指導、市町村からの啓蒙強化が必要です。また、リチウムイオン電池製品を製造販売している会社に声を上げていかないといけないと考えます。新たな保管場所を屋外に設定しないと大きな事故につながると思っています。区民にわかるように出していただく、回収時にもリチウムイオン電池は別に運搬する等の処理が必要。パッカー車が燃えてしまう例もあるので気を付けていただきたいです。

可燃ごみ週3回からやがて板橋区も2回になってくると思います。回収現場で困っていることとして、少子高齢化でベテラン職員が抜け、若い人は入ってこない。回収日を週5にできないものでしょうか。月曜は量が多い、土曜日は少ない等あるが、平準化すれば週5日の回収に移行できるのではないかと思います。古紙回収も集団回収が減ってきていますが、埼玉地区は週5日の金曜日までの体系にしているところも多い。2035年に向けて非常に大きい問題です。このようなことにも目を向けていただきながら部会も進めていただきたいです。

○資源循環推進課長

今後10年間ににおける人材不足、働き方改革を踏まえた持続可能な社会を考えるにあたり、収集・運搬作業も当然入ってくると思います。何ができるとお約束はできませんが、今後計画策定する中で情報収集・検討していきたいと考えております。

○会長

リチウムイオン電池の扱いはどのようになっていますか。事務局からご説明いただけますでしょうか。

○資源循環推進課長

原則としてJBRCの回収をご案内しております。膨張している等事情のあるものについては、資源循環推進課もしくは清掃事務所にご連絡をいただいて、不燃ごみの日に、外袋に中身を記載して集積所に出していただいております。拠点回収を始めている自治体もあり検討を行っております。

○会長

普及啓発事業は非常に重要であります。3Rは大切だと学ぶ機会に加え、区民の皆様が主体的に動いて情報を得に行くときというのは、ごみアプリ等を使って分別について調べたり、次の不燃の収集日を調べたりする時が最も能動的瞬間だと思います。スプレー缶の穴あけ等自治体がどれだけ発信していても未だに穴をあけて爆発させてしまう人がいると聞きます。これは

自治体の普及啓発の不足だとは思っておりません。いったん頭に入れた情報はなかなか出ていかないもので、どうしてもやってほしくないことは、能動的に情報を取りに行くときにアプローチする必要があると感じます。アプリの使い勝手が悪くなる可能性はありますが、ごみアプリを使うときに「スプレー缶は穴あけしない」「リチウムイオン電池で火災が起きる」等の情報を一瞬見せてから求めている情報に行きつく等の工夫が必要と考えます。

また、さまざまな自治体の情報が出てきますが、行政サービスの持続性・継続性という視点は非常に大切です。例えば、収集回数を変えました、数年たってやっぱりやめましたとなると短期間にかわってしまうことが区民の皆様にとっては一番の負担であり困ることです。行政サービスの持続性は住んでいる人にとって一番の安心となります。

また、温室効果ガス削減のため等の理由から収集サービスをぎりぎりまで絞るのもあまりよくないと考えます。緊急事態にハンドリングできなくなる可能性もあり、ある程度の余裕を持つ必要があります。この計画期間7年間を見て、災害を乗り越えたか、日々安定的に収集ができたかという視点は数字にも見えないですし評価されにくいですが、継続的・安定的に行政サービスを行えたかという面で評価できることと考えます。このような観点も考慮しながら策定を進めていただければと思います。

○委員

本日はいろいろ勉強させていただきありがとうございます。今回、食品ロス削減推進計画を新たに手厚くされるということで、その部分はどのようなことが盛り込まれる予定でしょうか。食品ロス以外でも新たな特色が出るようでしたら頭出しとして教えていただけますでしょうか。

○資源循環推進課長

食品ロスについては、国の食品ロス削減に関する法律に基づき策定します。今現在も事業者と連携して食品を無駄にしない個々の取り組みを行っておりますが、それに加え数値目標をどのように定めるか、全体としてどのような方向に進んでいくのかを整理しながら策定したいと考えております。可燃ごみに含まれる資源の種別としては、厨芥・紙類・プラスチックが多く含まれていますが、とくに温室効果ガスの面からだとプラスチックが注目されております。これらをいかに減らしていくかということをひとつ頭出しとして考えております。また、オール板橋をいかに示していくかということにも重きをおき、区民の方がふとした時に板橋の取組を感じてもらえるような工夫についても今回の策定方針のひとつとさせていただいております。

○委員

オール板橋ということだと、物販を行っている等廃棄物を発生させる事業者の方への働きかけも含め、強化していくということでしょうか。

○資源循環推進課長

事業系一般廃棄物については事業者の方からいかに協力を得るかということも大切だと考えております。

閉会